

# 今、病院でチャプレンが感じていること — 神の物語を共に生きていくために —

コロナ禍。私たちは、あまりにも変わり果てた日常に傷つきました。医療や介護の現場も同様です。しかし、それは、患者や高齢者がコロナ以前から強いられてきた思いかも知れません。非力の中で、なお生かされていること。そこからの「希望」を、病院チャプレンと考えたいと思います。

● 日時：2021年 **11** 月 **12** 日（金）16:40 — 18:10

● 場所：同志社大学 今出川キャンパス 同志社礼拝堂

● 講演：大野高志（衣笠病院チャプレン）

1975年、静岡市生まれ。2002年、同志社大学大学院神学研究科修了。日本基督教団天満教会担任教師（大阪）、ケルン・ボン日本語キリスト教会牧師（ドイツ）を経て、2007年から社会福祉法人日本医療伝道会（衣笠病院グループ／神奈川県横須賀市）職員。現在同法人チャプレン室長。上智大学グリーンケア研究所認定臨床傾聴士。日本臨床宗教師会認定臨床宗教師。

司会：勝又悦子（神学部 教授）

コメンテーター：関谷直人（神学部 教授）

◎本シンポジウムは、ALL DOSHISHA 教育推進プログラム「社会実践のためのブレンディッド・ラーニングの構築—「地の塩」プロジェクト」の一環として行われます。

問い合わせ 同志社大学 神学部・神学研究科事務室

Tel: 075-251-3330

<https://theo.doshisha.ac.jp>

## 「今、病院でチャプレンが感じていること」 ～ 神の物語を共に生きていくために ～

### 0. はじめに

- ・ 神学生のころ
- ・ ドイツから衣笠病院へ
- ・ 出会い① 「時間の無駄だ」
- ・ 出会い② 傷に触れる



St. Martin of Tours and the Beggar, painted about 1320 by Simone Martini for the chapel of St. Martin in Assisi.

### 1. 「チャプレン」という言葉

- ・ 合羽とチャプレン ～マルティヌス（4世紀のローマの軍人）～
- ・ 「非力を分かち」
- ・ 「ネガティブ・ケイパビリティ」（帚木蓬生） “日葉と目葉”



遺族を苦しめ続けるものの大部分は、後悔です。「もっと何とかしてやれなかったらどうか」「受診させるのが遅すぎたのではないか」「モルヒネを頼んだので死期を早めたのではないか」と、いくつもの後悔が遺族を苦しめます。どんなに患者さんに尽くした家族でも、死後、「もっとしてやれたのに」と悔やむようです。これはもう間違った認識としか言いようがありません。

そんなときには、「あれ以上の介護と献身は、考えられません。主治医である私がよく見て知っています」と言ってあげるだけで、遺族の心の重荷は軽くなります。

『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』朝日選書 88頁

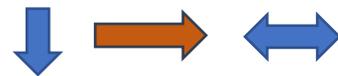
### 2. コロナ禍で

- ・ 非力を思うとき
- ・ 2020年3月下旬～4月上旬  
職員2名の罹患
- ・ 2020年8月下旬  
入院患者7名、職員3名の罹患
- ・ ボランティアがいなくなった。
- ・ 「不要不急」を削ぐ→「体を治す」への集中
- ・ 「人はパンだけでも生きられる?！」
- ・ たくさんの寄付をもらったこと。病院の創立につながって。



### 3. 医療モデルとは違う道を

- ・ 人を「人体」とみなす医療：同一の疾患には同一のアプローチを！
- ・ EBMで
- ・ 医療提供者と受給者には差異・・・「チャプレンが10分話を聴いたら、患者の痛みが20%軽減された」、と言えないもどかしさ
- ・ 「人体」とみなさないチャプレン
- ・ 患者と私は同じ被造物
- ・ “きちんと動じる！”・・・そのことで語り手を孤独にしない
- ・ 同じところに立つ・・・“カウンセラー”と“クライアント”の関係でなく
- ・ 中動態 Cf.『中動態の世界 意志と責任の考古学』國分功一郎 2017 医学書院  
“τὸν ἵππον λύει.”（能動態）と“τὸν ἵππον λύεται.”（中動態）  
「癒す」でも「癒される」でもなく・・・「癒える」
- ・ 同じ地平で、神に委ねるよりほかないところに立つ
- ・ 「リ・メンバリング」Re-membering/M. ホワイト  
出会い③ Sくんのこと。いない人がいる人を繋いでいく。Ministry of absence.



### 4. 牧師にしかできないことは？

- ・ 死ぬことを前提としたケア：出会い④ 急に死ぬことが怖くなった人
- ・ 罪の赦し：出会い⑤ 小学生の時の罪責を告白された方  
Cf. E.トゥルナイゼン  
牧会者 (der Seelsorger) は、赦罪の福音の、にない手であり、(中略) (人々を)、言に導き、彼らのために、祈りの中に固くとどまることによって、これを、教会の主結びつけることがゆるされている。 — 『牧会学』1946年
- ・ 祈り：出会い⑥ 祈りを撮影された方



Eduard Thurneysen  
1888-1974

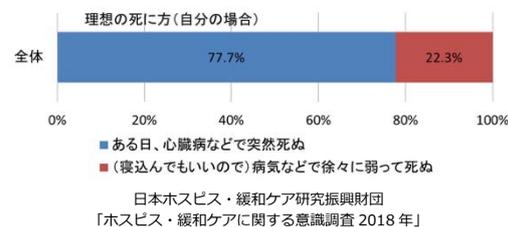
### 5. 「ホスピス」と「緩和ケア病棟」

- ・ 「ホスピス」は使いにくい！？
- ・ ホスピス⇒緩和ケア病棟／“帰れますよ！” 死を語らない緩和ケア
- ・ “その人がその人らしくいられるお手伝い”？
- ・ 家族のモルヒネへの抵抗（しゃべれなくなる、寝ている時間が長くなる）
- ・ PPK信仰、「辞世の言葉」要求
- ・ 死を「瞬間として」

→「連続の弱くなっていく過程として」受け止めることへ

⇔最期まで立派でありたい。最期まで立派であってほしい。立派であるべきだ。

- ・ 出会い⑦ 「祈れませんか」「ゆだねられません」「こんな姿勢でごめんなさい」
- ・ 「エンディングを考える」というとき、「最期まで立派」の担保の提示になっていないか？
- ・ 「趣味や趣向を継続できること」=QOLの維持？
- ・ 「変化し、衰えていく個人」に寄り添い、死を見つめつつ成長(spiritual growth)するためのケア
- ・ “ホスピス運動”は“伝道”途上なのではないか？（今はまだ、多くの人に必要とされていない）



## 6. スピリチュアルケア — スピリチュアルに関わり合うこと

- ・ スピリチュアルペインを取ることで?
- ・ 私を私にしてくれる人に出会うことでは・・・ 痛みを通して繋がる！  
cogitas ergo sum?
- ・ むしろ貰うことも多いケア、いのちを分かちケア
- ・ “I did not found hospice. Hospice found me!” (Cicely Saunders)  
／デヴィッド・タスマへの思い。財産を享けて。



Dame Cicely Mary Strode Saunders  
1918-2005

## 7. 有り余る中から与えるのではなく・・・祈り

- ・ いつも「よいもの」(the best)を提供するのではない。
- ・ よわさ、欠けを共に担っていくこと
- ・ カンファレンス (Conference: ともに担うこと) のたいせつさ
- ・ 出会い⑧

「どうして自分をたいしたものだと思いたくなるんだろうなあ」

「空を見ていて、青いなあと思える。それだけでよしとしていると、

今度は自然に空が青く見えてくる」 煙突に 群雲ひとつ 春日傘 (拙)

→ 「先生みたいに歳をとりたくないなあ」／「君も病気をしないとイケないよ」



夕焼けの衣笠病院

## 8. まとめ

医療や介護の現場は人生の現場です。そこに牧師が関わるのは、その一人ひとりの人生の主人公が、決して「その人そのものではない」ことを知っているからです。今、まさに医療・介護の現場で必要とされているのは、「神のなしたもう業」を、同じ人間として「見守る」ことのできるケアワーカーです。ケアワーカー自身も、自分の弱さや限界を、神と目の前の隣人＝患者さん、利用者さん、家族、遺族、スタッフに委ねて、その大いなる業を仰ぎ見ていくのです。それは大変さと同時に、感動と感謝に包まれる生活です。目の前の人の「やり残し」や「置き土産」を丁寧に拾い、神に祈り、慰めることで、自分もその方から大きな力をいただく——そんなスピリチュアルな関わりが、今、現場では求められていると思うのです。

「むだにはならない」

『かみさまおてがみよんでね』横田幸子編著 コイノニア社 より

きょうかいで

たねまきの おはなしを きいたの。

たねが むだに ならないように

かみさまの おはなしを

よく ききましょって いったけど、

ふうこは あの たねたちは

むだにならないって おもう。

だって

みちに おちた たねは とりさんが たべたし、

いしのうえや いばらのなかにおちた たねは

めをだして ひよろひよろでも

むしさんが たべたと おもうよ。

だから だいじょうぶ、

たねは むだになんか ならない ふうこ (6歳)



IWANAMI  
+  
GHIBLI



# かたわらに、今、たたずんで

## 第二回 死んでも生きるいのち

衣笠病院グループ チャプレン  
大野 高志

Ｔさんへ

Ｔさん、私はあなたのいのちが、あと数日なのではないかと思っていました。入院されてひと月、だいぶ痩せてしまわれたからです。あなたは横になっていながらも辛いと、壁を背中にベッドの上に座り、じっと細く苦しい息をしておられましたね。本当にしんどいことであつただらうと思います。

真理とは何か

Ｔさん、あなたは音楽をやつてこられた方でしたね。

にはもう、話を茶々でごまかしている余裕はないのですね。もちろんそのとき、私の頭の中には、聖書の名場面、イエスが総督ピラトの面前で裁きを受けるとき、総督から「真理とは何か」と問われている箇所が思い浮かびましたよ。でも、だからといって何でしょう。その場面のやり取りを延々と解説したつてあまり意味のあることには思えないし、とても一方通行な空しい話になってしまいそうです。

誰もが一生懸命に生きているから

するとあなたはおっしゃいましたね。「真理っていうのはみんな違うんだよ。例えば、このコーヒーをあなたはおいしいと思つて飲む。俺はまずいと思う。でもそれはどっちも真理なんだよ。泥水から咲く蓮の華がたくさんの花弁をつけて開く。と同時に実をつける。それが分かつていけば十分なんだ。で、大野さん、だつたね。キリストの、なんかいい話はないのか?」

「何だよ、それ」

まあ、そんなようなのが、最初の日の会話でしたね。そのときから、直球勝負で今の時を生きておられるあ

わりと激しいロックバンドをやつておられたとか。私はロックなんてほとんど知らないの、最初から会話負けしてしまう感じがしました。それで、「バンドやつておられたなら、もてたでしょ」と、ずいぶんスケベな茶々を入れてしまったのです。でも、そのことに對するあなたの言葉は鋭かった。「そう聞くのは、何も知らない人だよ。今、俺は、大野さん、あなたがバンドに興味ない人だつてわかつた」

もう音楽の話はしない、という先制パンチでした。その代わりに、あなたは法華經の話を始めました。今、自分は法華經にはまっているのだとおっしゃいました。お父様とお母様が創価学会員であつたこと、ご自分は若い頃には興味がなかつたこと、今も学会の政治姿勢はおかしいと思つているけれど、とにかく日蓮さんの本が安く買えるので、とりあえず学会につながつているとも話してくれました。それは、「さあて、この若い牧師さんとやらがどんな反応をするものか」というところだつたでしょうか。そしてあなたは、私に「真理つて何だと思ふ?」という質問を投げかけてくれたのでした。

いきなり直球勝負ですよ。わかりました。あなた

なたの存在が、私を捕らえてしまいました。

次の日、私は前の日のやり取りがちょっと悔しかったのと、少しはまともなことを言いたいような気がして、手元の本の一節を持っていきました。あれはたまたま目にとまつた本棚の随筆からでしたが、結構Ｔさんの思いに近い、いい線いつている文章だつたと思います。それを読んで差し上げたら、「よかつたね」と言つてくださいましたね。その文章を見つげられたこと、それが私にとって「よかつたね」と言つてくださったことに、一気に緊張がゆるみました。あなたは真理について、自分はいろんな人の真理を認められずに生きてきたこと、私の強い自分であつたこと、それがもとで、まだ五四歳なのに体を壊してしまつたのだということ、そんな自己分析を示してくださいましたね。私は病棟カンファレンスであなたが何度か離婚されていること、そして何度も職を辞めておられることを聞きました。でも、そのことについてあなたが私に話されたことはありません。だからそれはどうだつていいことです。ただあなたが、自分は人を評価できずに生きてきた、「私の強い自分だつた」とおっしゃつたこと、そして私に「よかつたね」と言つてくださ

ったこと、それがあなたの今の時にそつと出会わせてもらえたことに思えてうれしくなったのです。

あなたは一冊本を貸してくださいました。『中村天風の行動学』。恥ずかしながら、私は中村天風という名前を初めて聞きました。あなたは本を差し出しながら、「必ず返せよ」と言われました。私はあなたの旅立ちが近いように思っていましたから、急いで読みました。一晩で読みました。今思うと、もう少し時間をかけて読んだ方がよかったようにも思います。ちよつと、あなたのメッセージを急いで扱いきつた気がしています。

創価学会のお仲間、私のことを紹介してくださいましたね。「変な神父」と言つて。でも「仲良くなつちやつてさ、懐が深いから」と言い添えてくださったことは、これ以上ない褒め言葉でした。お客様は新潟から三時間かけて会いに来られた方でしたね。私は「私もTさんだったら、三時間かけて会いに行くかも」と言いました。そうしたら「うれしいこと言つてくれるじゃん、交通費出すよ」と、これもうれしい言葉。

「じゃあ、今ください」と手を出したのは、私の照れ隠しです。

人つて、いろんな考えの人がいるものですね」とつぶやいたときのことです。あなたは深くは何も聞かず、ただその途切れる声で、振り絞るように、「大野さん、あなたは人の話を聞く仕事なのだから、そう、人の話を聞く仕事なのだから、真ん中にいようとしちゃだめだ。その人のそばに行つてあげなきゃ」と諭してくださいました。そして、そんな気弱な訪問もあなたは喜んでくださり、「ありがとう」と手を握つてくださったのでした。とても慰められました。

### あなたの思い出に生かされて

Tさん、あなたは、そして数週間後に旅立つていかれましたね。あなたがおられなくなつて、私は寂しく、支えを失つてしまったように感じたこともあります。でも、あなたが見えなくなつてしまつても、あなたとの間には、もう変わらない思い出と信頼が存在しているような気もしているのです。私はあなたに会えてよかった。これは真理です。だから一言だけ、聖書の言葉を贈らせてください。

わたしは復活であり、命である。わたしを信じる

### 一緒に生と死を見つめて

あるときは、あなたから看護師を通じて私を呼んでくださいましたね。「さつきは来客中で悪かった」と。だからその後お邪魔したときは、ちゃんと聖書持つて行ったのです。そして詩編23を読みました。「死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れぬ。／あなたがわたしと共にいてくださる」

「Tさん、これは何千年も読み続けられてきた聖書の箇所です」と言つと、あなたは大きくうなずかれました。

「Tさん、死つて考える？」

「そりゃ、そうでしょ」

「病氣してから、生や死に対する思いは変わった？」  
「やつぱり生きていることを大切にしようになつたね」

とそんな会話をしましたね。そんなやりとりがあったからでしょうか、私はそれから毎日夕方、帰りがけにはあなたに挨拶をしないと、一日が終わらないような気持ちになりました。

Tさん、あの日はありがとうございました。夕方遅く私が疲れ切つた表情で、あなたの横に座り、「はあ、

者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない(ヨハネ11:25) 26)。

あなたは私の中で生き続けます。だから、また会いましょう。あなたがおられた病棟で。そしていつかまた天で。

心からの感謝を込めて。Tさんへ。